

### 3 おすすめ方のヒント（展開例）

次のページから、それぞれのワークシートに応じた「おすすめ方のヒント（展開例）」を掲載しています。実際に学習会を行う際の、参考としてください。

#### 1 学習会の規模について

この「おすすめ方のヒント」は、「参加人数20人（1グループ5人で4グループ）程度」という想定で作られています。

- ① たとえば、グループ内で自己紹介や意見交換する場合、一人が1分しゃべると、5人で5分かかります。
- ② 1グループの人数は、必ずしも5人でなくてもよいのですが、たとえば10人になると、時間は倍の10分かかります。
- ③ また、グループ間の人数が違ると、意見発表にかかる時間も違ってきます。そうすると、全体の進行にも影響が出ます。グループ間の人数が大きく違うことのないよう、留意してください。
- ④ 学習会の規模は、理論上は、グループワークができる場所さえあれば、何人でも可能ですが、実際には、グループ数が多くなると、全体の進行管理が難しくなります。それは時間の管理だけでなく、グループでの話し合いに対してファシリテーターが適切なアドバイスするといった、学習会の「質」の管理にも及びます。これまでの経験上、30人程度（5人×6グループ）までが限度と考えた方が良さそうです。
- ⑤ 逆に少人数（10人未満）の場合は、グループ分けはせず、1グループでファシリテーターが直接グループワークの進行を行ってもよいでしょう。

#### 2 必ず自分で「展開案」を作りましょう

この「おすすめ方のヒント」は、あくまで学習展開の一つの例です。実際の展開に当たっては、受講者の人数や年代、会場の広さや状態（和室か洋室か、冷暖房の有無、屋内か屋外かなど）も考慮して、必ず自分で展開案を作るようにしましょう。展開案を作成するにあたっては、次の点に留意してください。

- ① 最初のアイスブレイクは、学習会全体の雰囲気に関わってきます。あまり「おすすめ方のヒント」にとらわれず、自分に自信があるもの、その場にふさわしいものに、適宜変えてください。（ただし、全体の時間配分や、準備物なども変わってきますので、注意してください。）
- ② ワークシートに沿って、自分で答えを記入してみましょう。エピソードや設問の意味がわからないところ、自分が学習者だったらファシリテーターに質問したくなるところはないでしょうか。答えにくい設問は、どう変えれば答えやすくなるか、考えてみましょう。考える時間、記入する時間も計ってみましょう。他にどのような意見が出てくるかも、予想してみましょう。
- ③ そういったシミュレーションを基にして、展開案（導入⇒展開⇒まとめ）を組み立てましょう。展開案の中には、参加型学習プログラムの主旨や学習者に心がけていただきたいこと（展開例では「三つの約束」と表記しています。）を伝える時間を入れましょう。また、まとめとして参加者が考えを深める「学習の振り返り」の時間をとるようにしましょう。学習展開の順番や時間配分は、学習会の時間等の状況に応じて、自由に変更してもらって構いません。場合によっては、ワークシートのエピソードや設問も進めやすいように内容や表現を変えてもらっても構いません。自分が自信を持って進められる展開案を作成しましょう。